



日本共産党市議会議員

おぜき栄子の

無料法律相談会
毎月第1火曜日(おぜき栄子事務所)

にこっと通信

ホームページ <http://www.dl.dion.ne.jp/~smileiko>
Eメール smileiko@dl.dion.ne.jp

第55号

足利市田中町789
第3石川ビル3階
市議会議員

おぜき栄子
TEL・FAX
72-7848

口約の実現に全力を尽くします！



日本共産党・足利市委員会が昨年末に実施したアンケートに寄せられた切実な願いや要望、震災被害の救援など、掲げた公約実現のために全力を尽くす決意です。どうぞ、よろしく願います。

今回の選挙では自粛の名の下に、候補者カーを出さないという申し合わせが、私を除く現職議員によって行われ、それを新人候補者にも展開するということが行われ、候補者の姿が見えにくい選挙となりました。

みなさんの大きな御支援で市議会へ送り出して頂きました。東日本大震災・津波や原発事故で大変な状況の中での選挙戦となりました。私は「足利市を安心して住めるまち」にするための政策を街頭から訴え選挙戦をたたかいました。

6月議会報告

臨時議会報告

議長選挙で協定を結びました！

5月20日(金)の臨時議会

で、国保の出産費用の限度額の引き上げ、監査・固定資産評価委員の選出や正副議長選挙が行われました。議長選挙は、おぜき栄子議員は河内利雄議員と協定を結び、河内議員に投票しました。結果は、藤生智弘議員と競い、13対11の僅差で河内利雄議員が議長に選出されました。副議長選挙は、おぜき栄子に投票しました。結果は、おぜき栄子1・白票6・渡辺悟議員17で、渡辺悟議員が副議長に選出されました。

おぜき議員は議長選挙で初めて他候補に投票を行い、議会運営の民主化へ貢献しました。今後の議会運営が期待されます。

河内議員との協定内容

- 1 民主的な議会運営に努める。
- 2 少数意見を尊重する。
- 3 後期高齢者医療広域連合議会の資料配布と報告を行う。

おぜき議員が所属する
委員会・各種委員会

- * 教育経済常任委員会
- * 政治倫理審査委員会
- * 地域保健対策協議会
- * 民生委員推薦会
- * 人権推進審議会

民主的な議会運営を 求める申し入れ

おぜき議員は、議長への申し入れは、機会あるごとに行ってきましたが、議運において、会派の代表質問をやめ、一般質問の時間を20分から35分へ延長することになりました。粘り強く申し入れを行ってきたことが実りました。

- 主な申し入れ内容
- * 政党など1名でも会派として認めること
- * 質疑と一般質問は、別にする。質問質疑、討論・表決を保証し、一般質問の時間を35分以上保証すること
- * 各常任、特別委員会などの傍聴を保障し、一日一常任委員会とする。全員協議会も傍聴を認めること
- * 公費での海外視察は行わないこと

6月議会が始まりました

市議選後の初議会となります
傍聴にぜひおいでください

会期は、6月9日(木)から6月27日(月)となります。
一般質問は16日から20日(月)まで行われ、おぜき議員は20日(月)の午後1時からの予定です。

- 主な議案
- 一、市税条例の改正
- 震災による被災者の負担軽減措置
- 二、一般会計補正予算震災被害の復旧など
- 三、休日夜間急患診療所開設の条例
- 四、市道鹿島山下線の両毛線アンダーパス工事契約について
- ①福祉と防災の質問予定は、まちづくり
- ②保育所整備計画
- ③休日夜間急患診療所条例の制定(日赤への借用料等について)
- ④市道鹿島山下線の両毛線アンダーパス化工事



おぜき市議は東日本大震災の救援ボランティアとして、5月21日から26日まで6日間に亘って仙台市内に入り、地元市議や地元の方と一緒に救援活動や市内の避難所で避難されている方など被災者を訪問し、要望や状況を聞きました。

3月議会報告

一般質問

住宅リフォームを地元業者に!

住宅リフォーム助成制度は全国175自治体(全商連調査、2010年11月29日現在)で実施されています。県内では鹿沼市・那須烏山市、隣の太田市が新年度から実施に踏み出そうとしています。

足利市もおおき議員の提案で住宅リフォーム支援事業が始まることになりました。市民、業者の皆さんは、一歩前進と評価しています。しかし、地元業者に仕事が行く緊急経済対策として、効果の上がる施策となっていくかどうかです。

足利市が行う住宅改修支援事業は新築住宅と同様の「改修費用の5%(上限5万円)」を商品券で交付。施工業者は、市内の地元業者、支店・営業所を有する業者」という内容です。

既に実施されている新築住宅取得支援奨励商品券交付制度の実施状況は、当局の回答によると申請者180人。そのうち地元業者(市内に本店及び本社を置く法人、個人事業者)が行ったのは、45件で全体の25%という状況です。新築住宅支援は、施工業者の所在地にこだわっていないので、材料仕入等を市内業者から行わず、市内の経済効果が薄いという問題点があります。

住宅改修支援事業の場合は、小規模工事が多いため、地元業者に仕事を回し、材料仕入等を含め波及効果も大きくなる。市内に本店、本社を置く地元業者に限定すべきと質しましたが、市長は支店、営業所を構えた業者も対象とすること

福祉、防災のまちづくりと 自治体本来の役割を果たす市政へ

に固執しました。しかし、地元業者や市民からの制度改善署名1543名の声にどう応えるのかに對して、市長から「様子を見ながら、23年度に改善をしていく」との答弁を得ることができました。

公共交通政策について

(市民の日常生活の足と
しての公共交通サービス)

地域公共交通は全ての施策の土台となり、住民の生活支援が最重要課題となります。国の産業政策、道路政策や交通政策などの方向を大きく転換し、まちづくりと交通権保障との両輪で、誰もが安心して移動できる豊かな社会を実現することが切に求められます。

路線バスは、足利市においても足利赤十字病院の移転に伴い、足の確保の面からも市民の要求が強くなっています。今回の路線バスの見直しは、市民の足となることと観光客に来ていただく保証となります。市民の期待にだけだけ応えられるかにかかっています。具体的な要求として次の項目を当局に質しました。



- ① 河南地域の午後の運行は、デマンド方式ではなく各停留所を通過する定時運行にすべきとの質問に当局は「効率を考え決めた」と回答。
- ② 河南地域は、2循環を統合すると大循環になるがとの質問に「2路線を基本として中心部の運行を行う」と回答。
- ③ 河南地域のコースに藤本町・南大町地内を通過する順路を設定については「各地域からの要望を踏まえ設定する」と回答。
- ④ 北関東自動車道と連携したバス路線については「今後情報の収集を進める」と回答。
- ⑤ 運行時間帯は「通勤・通学に利用できる時間帯については可能な限り運行を目指す、実証運行で状況を把握し検討する」と回答。
- ⑥ バス利用の促進のため、共通回数券、割引券、乗り継ぎ券など利用者の利便性については「定期券も含めて検討する」と回答し、前向きな回答を得ました。

その後、河南路線が南大町地内を運行することが、5月の全員協議会で明らかになりました。



震災支援ボランティアに参加して

東日本大震災から、2ヶ月以上が立ち、栃木県の共産党から、震災支援ボランティアの募集がありました。自己完結型で、寝袋でテント生活になるかも知れないということでも、出発当日まで、体調を整え、無事に被災者の応援ができるかどうかとても心配でした。

活動拠点は仙台市議の選挙事務所(壁の崩落などの地震被害あり)がボランティアセンターとなり、幸い布団で休むことができました。

支援場所は、仙台市の若林区、宮城野区、泉区、青葉区に現地の方々や市議と入りました。若林区は、仙台東部自動車道が津波の防波堤となり、道路の東西で被害の明暗を分けたことを知りました。

丸ごと津波に襲われたあるお宅の男性は、家の形だけは何とか残ったものの散乱する瓦礫の中で茫然と立っていました。「津波で両親を失い、三日後に畑で、見つかった。救いは、二人並んできれいな顔だったこと。今は、仕事をして土日しか来れない」と話された。



埼玉県の救援ボランティアの人たちと



宮城野区の状況(海辺の松林が見えます)